

大田昌秀さん

1925(大正14)年6月12日生まれ

所属 師範鉄血勤皇隊
(沖縄師範学校)



●1946(昭和21)年 遺骨収集

我々が戦後遺骨収集しようとした時に、文教学校という、教員が足りないからと教師養成の学校が出来たんですね。わずか半ヶ年の学校で。そんなとき「僕らは勉強に来たんじゃなくて、学友の遺骨を拾いに来たんだ」と言った。

当時は食糧も何も無くて、お金も流通してないわけ。沖縄は戦後1年間、米軍の無償で払い下げの食糧を貰って、薬も米軍から貰って、生き延びとったわけですね。ところが那覇軍港で米軍の軍事物資が入って来る時に、食糧が無償で入って来る代わりに労働者を出せということになって、荷役仕事をやっていたわけです。ところが、落ち着いてきて個人の会社が出来たりすると、米軍の荷役は重労働ですから、行かなくなって個人の会社に入る。米軍は怒って、食糧配給を止めちゃったわけです。

「我々は遺骨を探すために来たんだ」とやろうとしたら、学校の先生たちはびっくりして、「米軍を刺激するから、大変なことになっちゃう。君らの純粋な気持ちは分かるけれど、君らが純粋な気持ちを実行に移すと、全沖縄の人の食べるものがなくなるから止めてくれ」と言う。当時、いたるところに米軍の十字架の墓がありましてね。どこへ行ってもいっぱい墓があって、「米軍だって死者を吊ってるじゃないか」と。「死者の遺骨を拾うのがどうして米軍を刺激するんですか」と言って、戦後初めての学生運動を起こして、徹夜で大学当局とやりあったんですよ。

そしたら沖縄民政府というのがあって、そこのお偉方がやってきて、先生たちと一緒に遺骨収集は待ってくれと行かさないんですね。その時、今でも忘れないのは、「今は米軍は沖縄の占領下にあって、俎上の魚になっている。煮て食おうが焼いて食おうが米軍の勝手だから、我々は自由がないから、諦めて時期が来るまで待ったほうが良くないか」って。そしたらグループの1人が「確かに沖縄のわれわれは俎上の魚だ。しかし煮て食われる、焼いて食われるまえに、学友の遺骨を拾って弔いさえ出来ないなら、人間としてすでに腐っている」と。

仕様がなから、政府の連中もじゃあということで、米軍も一緒に行ってもらおうという事で、憲兵のジープに乗っけられて、みんなが行くんじゃなくて男女の代表が2人ずつぐらい行く。私は真っ先に行きましたけど、米軍の警察のジープに乗っけられて摩文仁に行きました。一つのテント小屋いっぱい遺骨だったですね。ところが地勢が変わっていて、われわれ石を乗っけたり、木切れを立てたりして、戦争が終わったら遺骨を拾えるようにしたのが、みな真っ白く爆撃でやられてしまって、全く跡形もなくて散々苦労しました。

ひめゆり隊の引率者として有名な仲宗根政善先生は、戦後石川にテント小屋がありましたけど、あそこに教え子達の遺骨を箱に入れていっぱい置いていて、遺族に返すためにやっていますね。ああいう先生がいなければとても遺骨は帰らなかったんですがね。それだけに今でも尊敬する、もう亡くなりましたけど。

1950年まで沖縄と本土は交通が遮断されていて行けなかった。そうしますと闇船、密航船が横浜とか神戸に通って、なんか買い取って来て、沖縄で売り込んで儲けていたわけです。その闇船が、憲法のコピーを持ち帰って来たわけです。この仲宗根先生は沖縄の民政府の文教部、今の文部省みたいなところがありまして、そこに勤めていて、教科書を作っていた。戦後は方言で教科書を作れという命令があって、絶対日本的なものをやめろって。日本の教科書を一切使ってはいけなくて持ち込むのも禁止されていたわけです。仲宗根先生は教科書を書いていて、ガリ版で原紙をきとったわけです。で、先生が、憲法のコピーが入ったって持って来て、当時はコピー機はないし、ペンもないし、鉛筆で重要なところを写しなよって。私も感動して前文とか9条とか、鉛筆で書き写したです。

●平和の礎(いしじ)

私は思い詰めたり、嫌なことがあったりすると、戦場に行ったんですね。沖縄には宮古・八重山とか離島が多いですね。離島のおじいちゃん、おばあちゃんたちはやって来て、摩文仁の海岸を行ったり来たりして、夕方までずっとやってるんですよ。何してるかって言ったら、自分の子供の遺骨がどこにあるか分からんから探す。

そのあと50年代になって初めて健児の塔が出来て、名前を刻んだわけですね。そうすると伊江島とか宮古・八重山のおじいちゃん、おばあちゃんたちが自分の息子の名前を一行なぞって立ち去らないで、朝から夕方まで涙流して自分の息子の名前をなぞっているわけです。そうして考えてみたら、沖縄戦争で全部失って、このたった一行の名前が、この人がこの世に生きていた証拠になるんだなあと感じて、これは必ず全ての犠牲者、沖縄だけじゃなくて日本本土の犠牲者も、名前刻まんといかんかなと思って。それが平和の礎(1995年落成)を作るきっかけになりました。

(取材日:2013年2月6日)